

ドイツの学友会、10周年を祝う

10年前、ドイツの熱心なロータリー財団学友が、海外体験を分かちあい、超我の奉仕を実行するためのネットワークづくりをめざして学友会を結成しました。

この「ロータリー財団ドイツ学友会」の設立10周年を祝おうと、昨年10月24日から26日、ミュンヘンに130名以上の学友が集まりました。

「ほとんどが元国際親善奨学生か研究グループ交換元参加者で、中にはロータリー・ボランティアの学友もいました。皆、10周年を祝い、近況報告を受けたほか、ネットワークづくりや知人との再会、そして、未来の計画作りに参加しました」と話すのは、第14ゾーン西のロータリー財団学友コーディネーター、ユルゲン・ウェンテ氏です。

今回のプログラムは、晴天に恵まれた午後、ミュンヘンの歴史的建築を回るウォーキング・ツアーから始まり、続いて地元のレストランで、バイエルン地方の伝統的な料理を囲み、親睦の夕べを楽しむというものでした。

翌日、学友とロータリアンは、本プログラムの開かれるミュンヘンのBMWパピリオンに集まりました。ミュンヘンランド・ロータリー・クラブの会員でBMW社を代表して記念行事に出席したフランツ・ターナー氏が参加者を歓迎した後、バイエルン州の科学・研究・芸術担当大臣、トーマス・ゴッペル氏がビデオを通じてお祝いの言葉を述べました。またハンス・ミュラー・レックRI元財務長も参加者に挨拶し、ロータリー財団ゼネラル・マネジャーのジョン・オスターランド氏と、RI会長ノミニエでロータリー財団諮問委員会の委員長を務めるレイ・クリンギンスミス氏からもビデオでメッセージが送られました。

次にロータリー財団ドイツ学友会の設立以来の功績が報告され、派遣学生と受入学生のためのセミナーや奉仕プロジェクト、ま

た昨年6月にロサンゼルスで開かれた第1回ロータリー学友祝賀行事に参加したことなどが紹介されました。ドイツ学友会が資金を提供して派遣した初めての国際親善奨学生、クリスティアンヌ・ミーテゲさんからのビデオ・メッセージも届きました。

午後のグループ討論とワークショップでは、世界各地の学友会と交流をもつよう努めること、ドイツ国内でさらに積極的に学友活動を推進すること、ポリオ撲滅のためのロータリーのチャレンジに向けてドイツ学友会が果たすべきこと、ドイツ学友会のウェブサイトを変更すること、といった話題が取り上げられました。

次に、学友はBMW社の世界本部を訪れ、BMW博物館の特別見学を行った後、バイエルン州議会のあるマクシミリアンウムでレセプションと夕食会に参加しました。夕食中は留学して音楽を学んだ学友が演奏を行い、ミュラー・レック氏がポリオ撲滅をめざすロータリーの活動の重要性を訴えました。これに対しドイツの学友は、ロータリーの2億ドルのチャレンジのために1,700米ドル以上を集めました(1ページを参照)。

記念行事の最終日は、ミュンヘンの中心部にあるヒポ文化財団美術館で「ウォルト・ディズニーの素晴らしい世界とヨーロッパ美術の影響」と題した展示を見学しました。見学の後は、再びバイエルン地方の伝統料理を堪能し、チャイニーズ・タワーのビア・ガーデンとレストランで親睦を深めました。

「記念行事の参加者は楽しみながら、いろいろな情報を得て、よい刺激を受けたようです。これまでの活動を紹介し、これから学友が一層活発に活動できるよう、意欲を高めることができたと思います」とウェンテ氏は話しています。



ロータリー財団ドイツ学友会の10周年を祝い、ミュンヘンに集まった学友たち。